

第2部

気候変動に関する政府間パネル

Intergovernmental Panel on Climate Change(IPCC)

第7次評価報告書について

The 7th Assessment Report (AR7)

大田 純子

j-ota@iges.or.jp

<https://www.iges.or.jp/jp/about/staff/ota-junko>

IGES

Institute for Global Environmental Strategies
公益財団法人 地球環境戦略研究機関



**北九州GX推進コンソーシアム
オンライン開催**

そもそもGXって?

パリ協定・IPCC編

暑すぎる夏を終わらせるWEEK

気候変動のニュースが流れるたび、決まって映し出されるのは、崩れ落ち、海に沈んでいく巨大な氷の塊です。それを見て、私たちはどこかで思っています。気候変動は、遠い世界の出来事だと。でも実際には、それは、日本で暮らす私たちの生活を壊しはじめています。暮らしが脅かされている——その現実を、一人でも多くの人が自分のこととして実感する。それが、適切な対策を進めるための、はじめの一歩になると私たちは考えます。そして、気候変動を最も「自分ごと」に感じられるのは、一年でいちばん暑い時期です。だからJAPAN 8・8 PROJECT実行委員会は、「暑すぎる夏を終わらせる日」として記念日登録した8月8日を中心に、8月1日～9日を「暑すぎる夏を終わらせるWEEK」と決めました。

世界がグリーントランスフォーメーション（GX）に向かう国際約束の土台である国連パリ協定ですが、「パリ協定って聞いたことはあるけれど…、COPって一体何を交渉しているの…、1.5度目標って何が根拠なの??」という方、必見です！

京都議定書からパリ協定の国際交渉（COP）に長年参加されている地球環境戦略研究機関（IGES）の大田 純子研究員が、パリ協定やCOPの仕組み、合意されてきたこと、企業への影響など、分かりやすく「そもそも」を解説します。さらに、気候変動の科学的知見の最高峰には「気候変動に関する政府間パネル」（IPCC）がありますが、大田氏は、現在、策定プロセスが進行しているIPCC第7次評価報告書の主執筆者（Lead Author）でもあり、最新のIPCCの展望についてもお話します。

2026
8.5 水
15:00~16:30

参加無料

お申し込み

下記URLまたは二次元コードからお申込みください。

申し込み締め切り 8/4（火）

地球環境戦略研究機関（IGES）
北九州アーバンセンター
リサーチマネージャー 大田 純子氏

IGES
地球環境戦略研究機関

大田氏プロフィール
こちらから▶▶▶

▶内容等は変更になる場合がございますので、予めご了承ください。

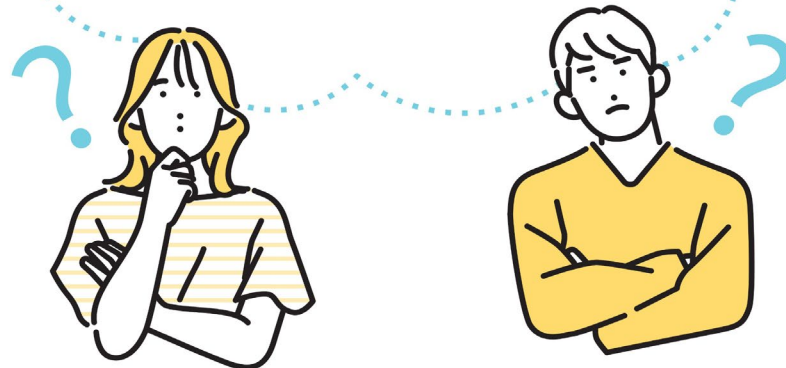
お問い合わせ先
（公財）北九州産業学術推進機構 GX推進部
☎ 093-695-3006 ✉ [fais-ktqgx2050\[at\]ksrp.or.jp](mailto:fais-ktqgx2050[at]ksrp.or.jp)
[at]を@（アットマーク）変更してください

主催：北九州市、（公財）北九州産業学術推進機構
（北九州GX推進コンソーシアム）

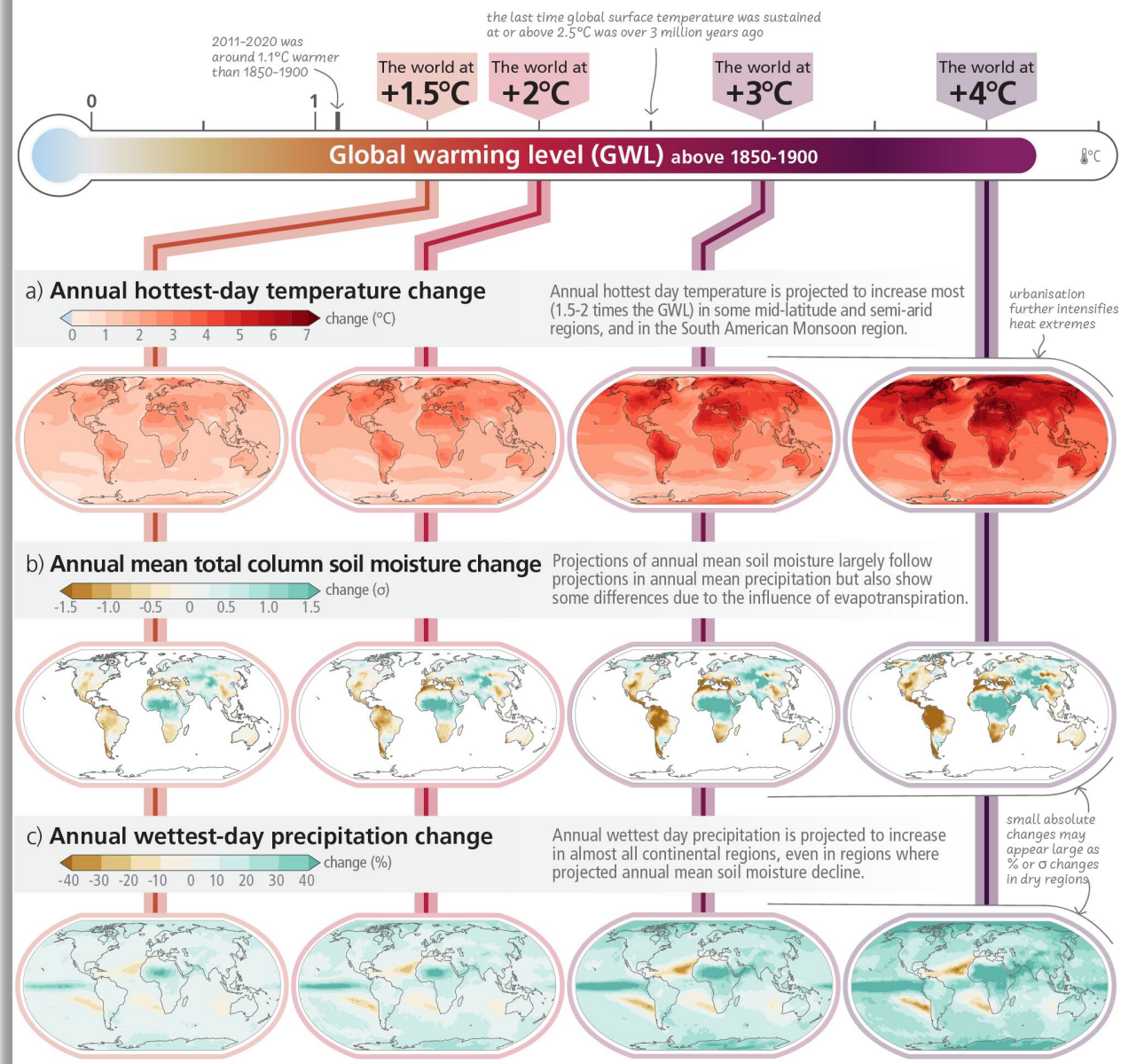
北九州GX

パリ協定の目的は
地球の平均気温上昇を 2°C ~ 1.5°C に抑えること

2~ 1.5°C って
どうやって
決めたの？



With every increment of global warming, regional changes in mean climate and extremes become more widespread and pronounced



こんな地球温暖化の予測図を 見たことはありますか？

IPCCが第6次評価報告書(2023)で作成した

1850～1900年を基準とした
地球温暖化レベルが
1.5°C、2°C、3°C、および4°Cの場合における
年最高気温、年平均土壌水分、
および年最大1日降水量の変化の予測

出典: IPCC. 2023. AR6 Synthesis Report.
Figure SPM2. <https://www.ipcc.ch/report/ar6/syr/figures/figure-spm-2>

世界のGHG排出量の将来予測: 5つのシナリオ

Future emissions cause future additional warming, with total warming dominated by past and future CO₂ emissions

(a) Future annual emissions of CO₂ (left) and of a subset of key non-CO₂ drivers (right), across five illustrative scenarios

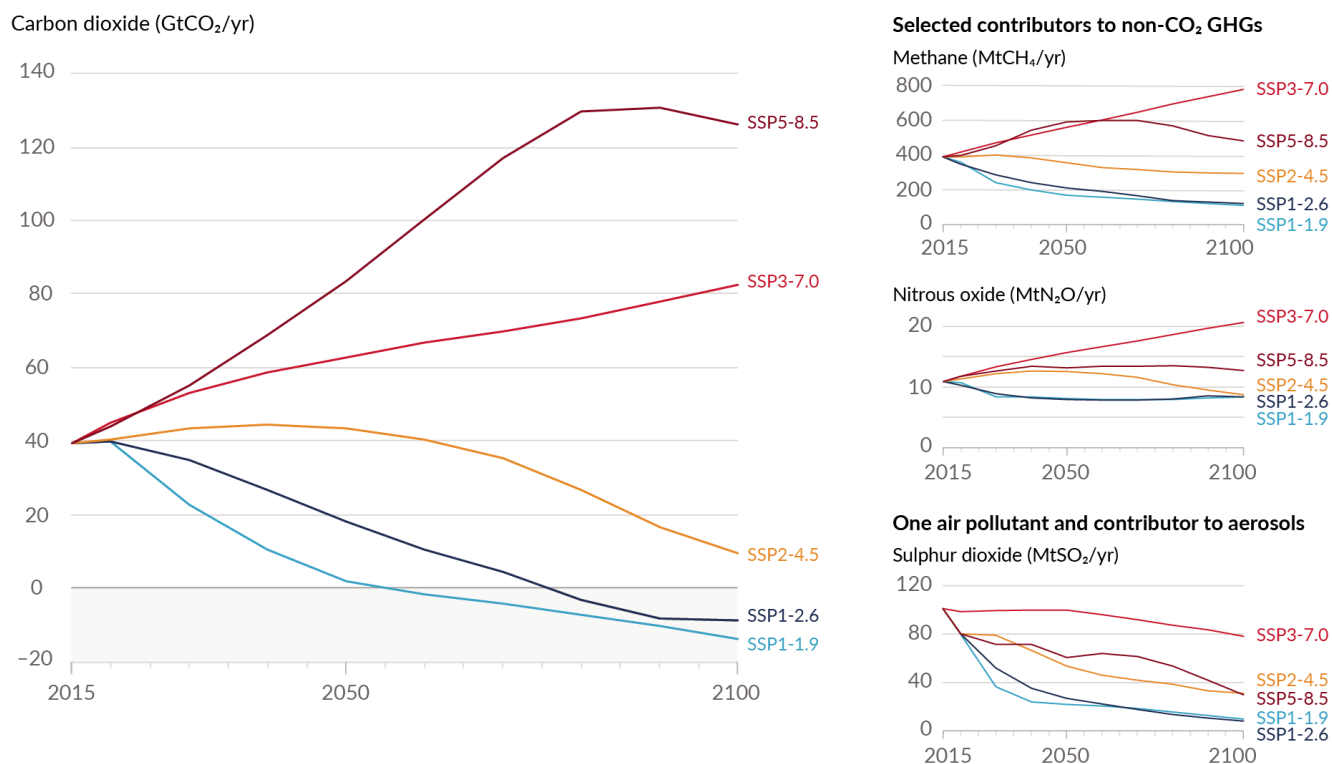


表 AR6 WG1の5つのシナリオの概要

シナリオ	シナリオの概要 [近いRCPシナリオ]
SSP5-8.5	化石燃料依存型の発展の下で気候政策を導入しない。2050年までにCO ₂ 排出量が現在の2倍に。[RCP8.5]
SSP3-7.0	地域対立的な発展の下で気候政策を導入しない。エーロゾルなどCO ₂ 以外の排出が多い。2100年までにCO ₂ 排出量が現在の2倍に。[RCP6.0 とRCP8.5 の間]
SSP2-4.5	中道的な発展の下で気候政策を導入。2030 年までの各国の「国が決定する貢献(NDC)」を集計した排出量の上限にほぼ位置する。CO ₂ 排出は今世紀半ばまで現在の水準で推移。[RCP4.5(2050 年までRCP6.0 にも近い)]
SSP1-2.6	持続可能な発展の下で、工業化前を基準とする昇温(中央値)を2℃未満に抑える気候政策を導入。2050年以降にCO ₂ 排出正味ゼロ。[RCP2.6]
SSP1-1.9	持続可能な発展の下で、工業化前を基準とする21世紀末までの昇温(中央値)を概ね(わずかに超えることはあるものの)約1.5℃以下に抑える気候政策を導入。2050年頃にCO ₂ 排出正味ゼロ。[該当なし]

AR6 WG1 1.6.1.1及びCross-chapter Box1.4表1、Box SPM.1.1より作成

Reference: 環境省 IPCC第6次評価報告書の概要

パリ協定の目標達成には
最善(SSP1)のシナリオが必要

出典: IPCC. 2021. AR6. WGI. Figure SPM.4

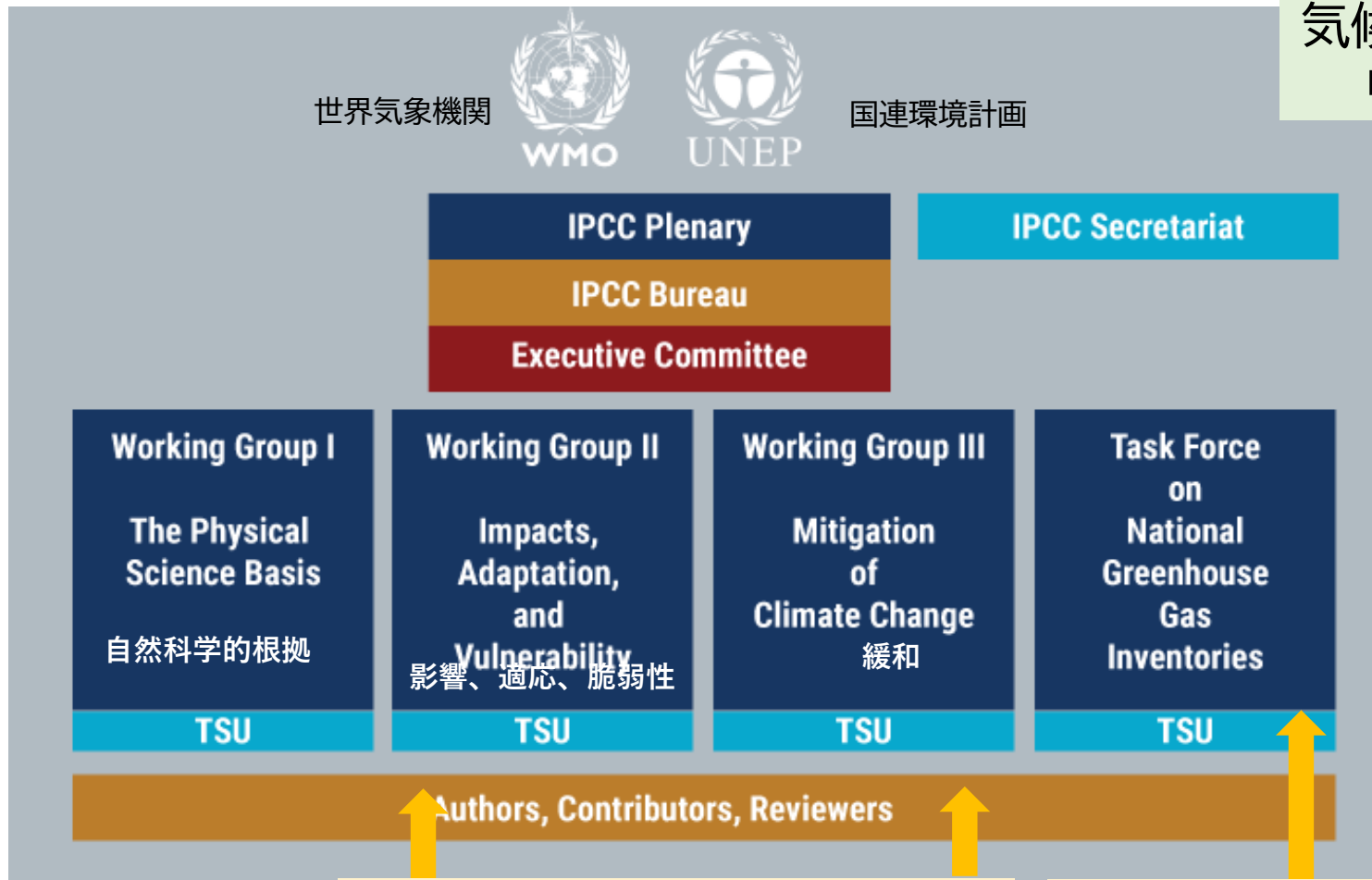
Climate Change 2021: The Physical Science Basis. Contribution of Working Group I to the Sixth Assessment Report of the Intergovernmental Panel on Climate Change

<https://www.ipcc.ch/report/ar6/wg1/figures/summary-for-policymakers/figure-spm-4/>

気候変動に関する政府間パネル

The Intergovernmental Panel on Climate Change (IPCC)

気候変動の科学・社会経済的知見を
中立的に評価する政府間組織



United Nations
Framework Convention on
Climate Change

国連気候変動枠組条約
(UNFCCC)
パリ協定の科学的根拠

政策立案者の
判断材料

出典(図): IPCC-HP
<https://www.ipcc.ch/about/structure/>

IGESからの執筆者
第2作業部会: 大田、第3作業部会: ザスマン、亀井

温室効果ガス目録タスクフォース
共同議長・技術支援ユニットはIGESが担う

スイス・ジュネーブのWMO内にあるIPCC本部

世界気象機関



(写真:The Geneva Environment Network HP)

1998年、**世界気象機関(WMO: World Meteorological Organization)**と**国連環境計画(UNEP: United Nations Environment Programme)**により**創立**

現在、日本を含む**195カ国**が加盟
(2026年、米国トランプ政権はIPCCから脱退)

IPCCの報告書の**政策決定者向け要約**は
(**SPM: Summary for Policy Makers**)
加盟国の承認が必要

各**プロセス毎**に、ワーキンググループ毎に**共同議長**
(Co-Chair)と**技術支援ユニット(TSU: Technical Support Unit)**を設置(TSUは共同議長の国に設置)

執筆者は政府推薦などを経て、IPCCが選考する。本職を持ちつつ、リモートとプロセス中4回程度の対面会議で作業を進める。各自政府やIPCC(途上国の場合)から旅費支援はあるが、執筆自体は**ボランティア**。

2007年、IPCCは「ノーベル平和賞」を受賞

「人為的な気候変動に関する知識の蓄積と普及、およびその変動に対処するために必要な対策の基盤構築に向けた尽力に対して」が授賞理由



(当時)第3代IPCCパチャウリ議長と元米国副大統領アル・ゴア

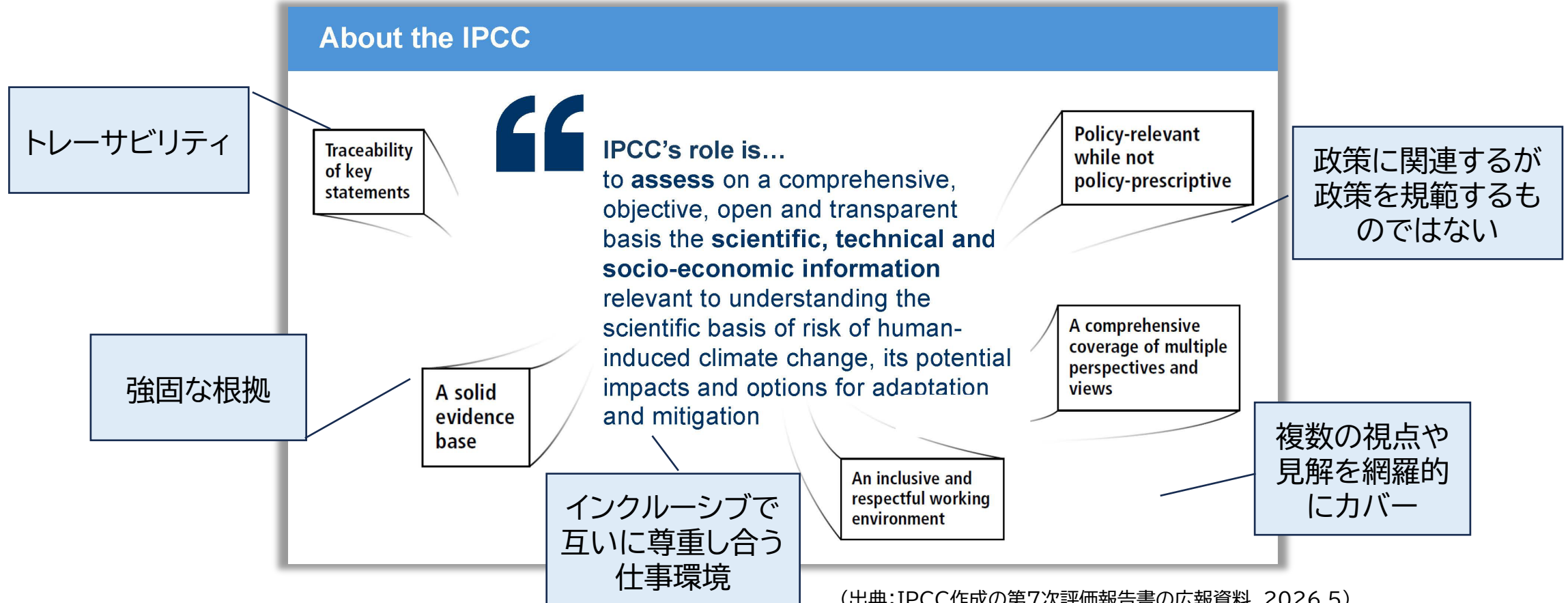


© The Nobel Foundation

Oslo, 10 December 2007
The Intergovernmental Panel on Climate Change and Albert Arnold (Al) Gore Jr. were awarded of the **Nobel Peace Prize** "for their efforts to build up and disseminate greater knowledge about man-made climate change, and to lay the foundations for the measures that are needed to counteract such change".

IPCCの役割

人為的な気候変動のリスクに関する科学的根拠、その潜在的な影響、ならびに適応および緩和の選択肢を理解する上で重要な科学的、技術的、および社会経済的な情報を包括的、客観的、かつ開かれた透明性のある形で評価すること



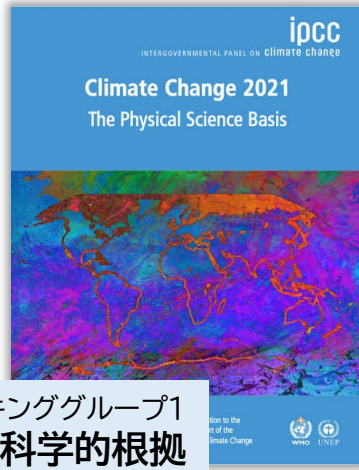
(出典: IPCC作成の第7次評価報告書の広報資料. 2026.5)

5年程度のサイクルで、気候変動の評価報告書を策定

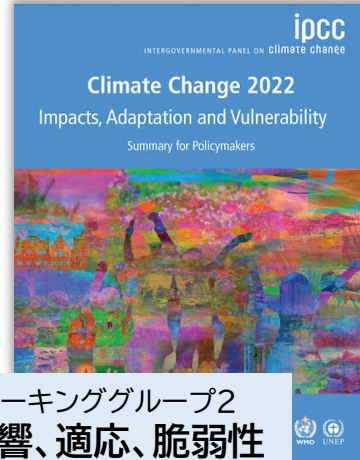


各サイクルの集大成として、評価報告書と特別報告書が統合報告書に

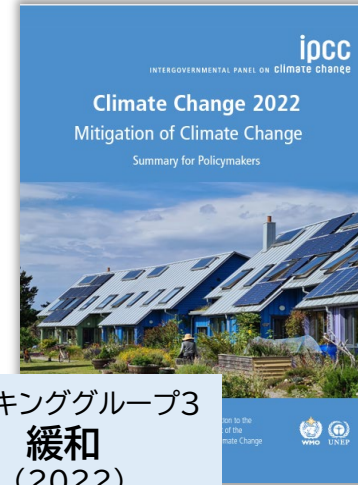
第6次評価報告書 Assessment Report (AR6)



ワーキンググループ1
自然科学的根拠
(2021)

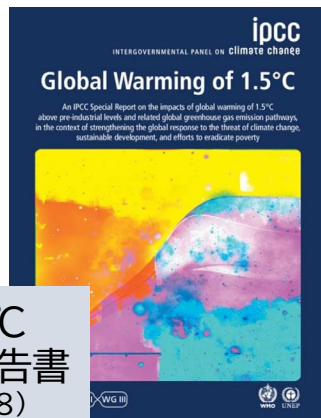


ワーキンググループ2
影響、適応、脆弱性
(2022)

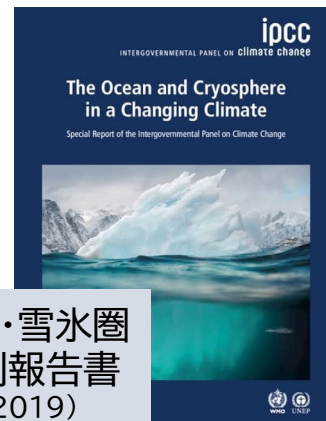


ワーキンググループ3
緩和
(2022)

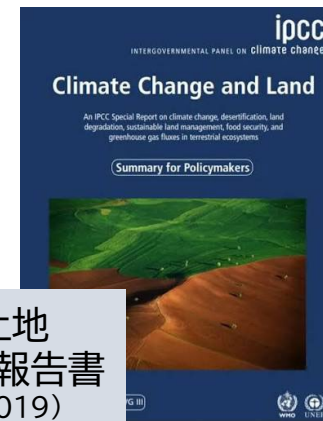
特別報告 Special Report



1.5°C
特別報告書
(2018)

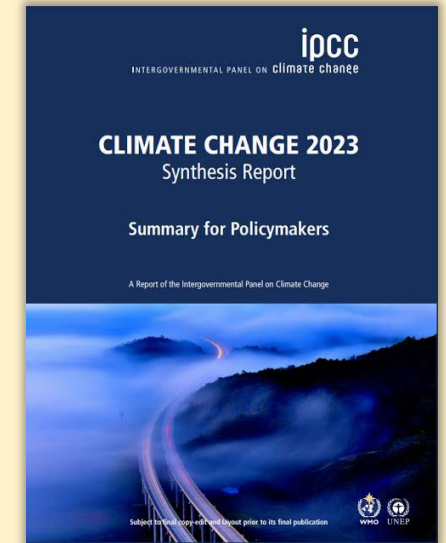


海洋・雪氷圏
特別報告書
(2019)



土地
特別報告書
(2019)

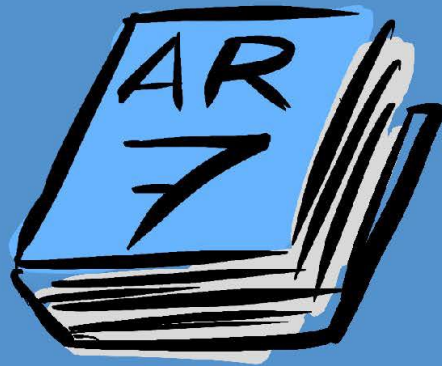
第6次サイクル 統合報告書 Synthesis Report (2023)



出典: IPCC-HP. <https://www.ipcc.ch/reports/>

進行中のIPCC第7次評価報告書(AR7)

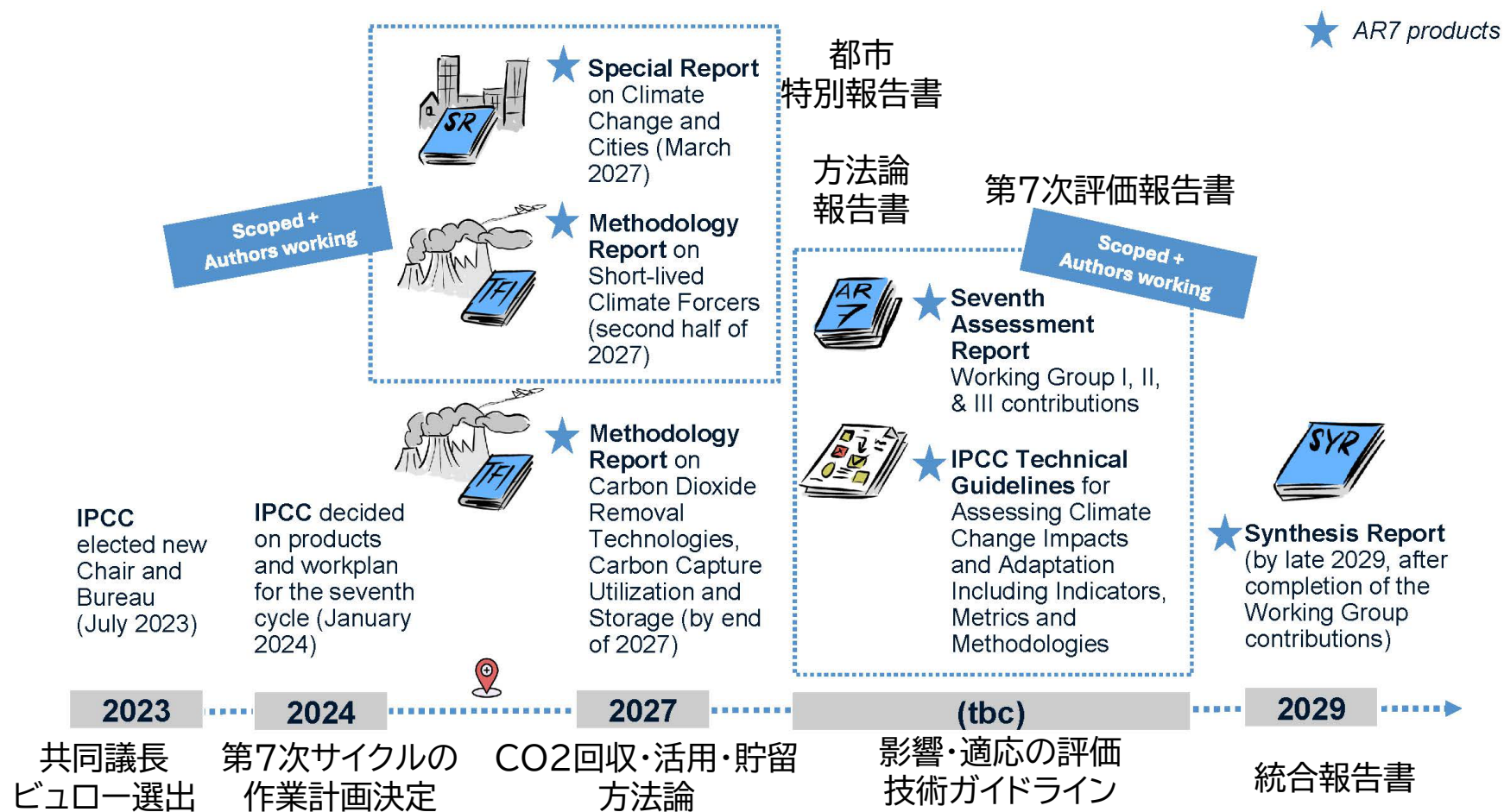
ワーキンググループ2(WG2:影響・適応・脆弱性)を中心に紹介



Introducing the
7th Assessment
Report

WG2・第7次サイクル全体の工程・アウトプット

Introducing the 7th Assessment Cycle (AR7)



(出典: IPCC. 第7次評価報告書の概要広報資料. 2026.5)

ワーキンググループ2のビューロー(幹部)

共同議長
(Co-Chairs)

Working Group II Co-Chairs



Bart van den Hurk
Netherlands



Winston Chow
Singapore

異なる地域から選出された議長団
(Vice-Chairs) ↓

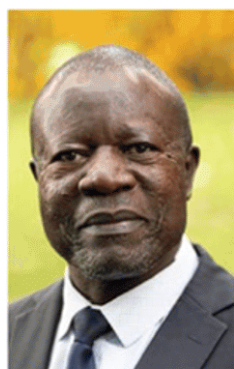
Working Group II Vice-Chairs



Fatima Denton
Gambia



Laura Gallardo
Chile



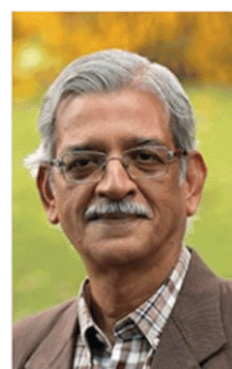
Cromwel Lukorito
Kenya



Carlos Méndez
Venezuela



Mark Howden
Australia



Raman Sukumar
India



Adelle Thomas
Bahamas



Zinta Zommers
Latvia

IPCC総会(政府出席)で、報告書の大まかなアウトラインは合意される

IPCC第62回総会(2025)で合意された 第6章(ファイナンス)のアウトライン

Chapter 6: Finance

- Background considerations, including broader macroeconomic context, other international commitments, barriers and enablers to finance
- Financial adequacy, access (equity and justice), inclusion, effectiveness, and outcomes considering finance at different scales (including national, regional, and global)
- Funding for adaptation – overview of financing needs, current climate finance flows, instruments and gaps, effectiveness and access, methodologies for tracking finance flows, and costs and benefits
- Funding for responses to losses and damages – overview of financing needs, current climate finance flows, instruments and gaps, effectiveness and access, methodologies for tracking finance flows
- Public and private finance for climate adaptation action and responses to losses and damages: finance flows at domestic and international levels
- Equitable financial systems and schemes including related approaches and policies
- Approaches to accelerate finance flows and investments, including the diversity of instruments and schemes for adaptation action
- Synergies between climate finance and climate resilience



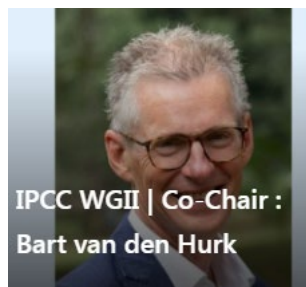
写真: IPCC. 第62回総会. 2025年2月. 中国
<https://www.ipcc.ch/event/ipcc-62/>

2027年のIPCC総会は日本で開催予定
(場所、日程は未定)

ワーキンググループ2: 影響、適応、脆弱性

Impacts, Adaptation and Vulnerability

WG2 共同議長



テクニカル・サポート・ユニット (TSU) (事務局機能: 計15名のスタッフ)



デルタレス研究所内
(オランダの研究機関)



シンガポール経営大学内



写真: IPCC. 2025.12. 第1回執筆者会議(LAM1)フランス・パリ

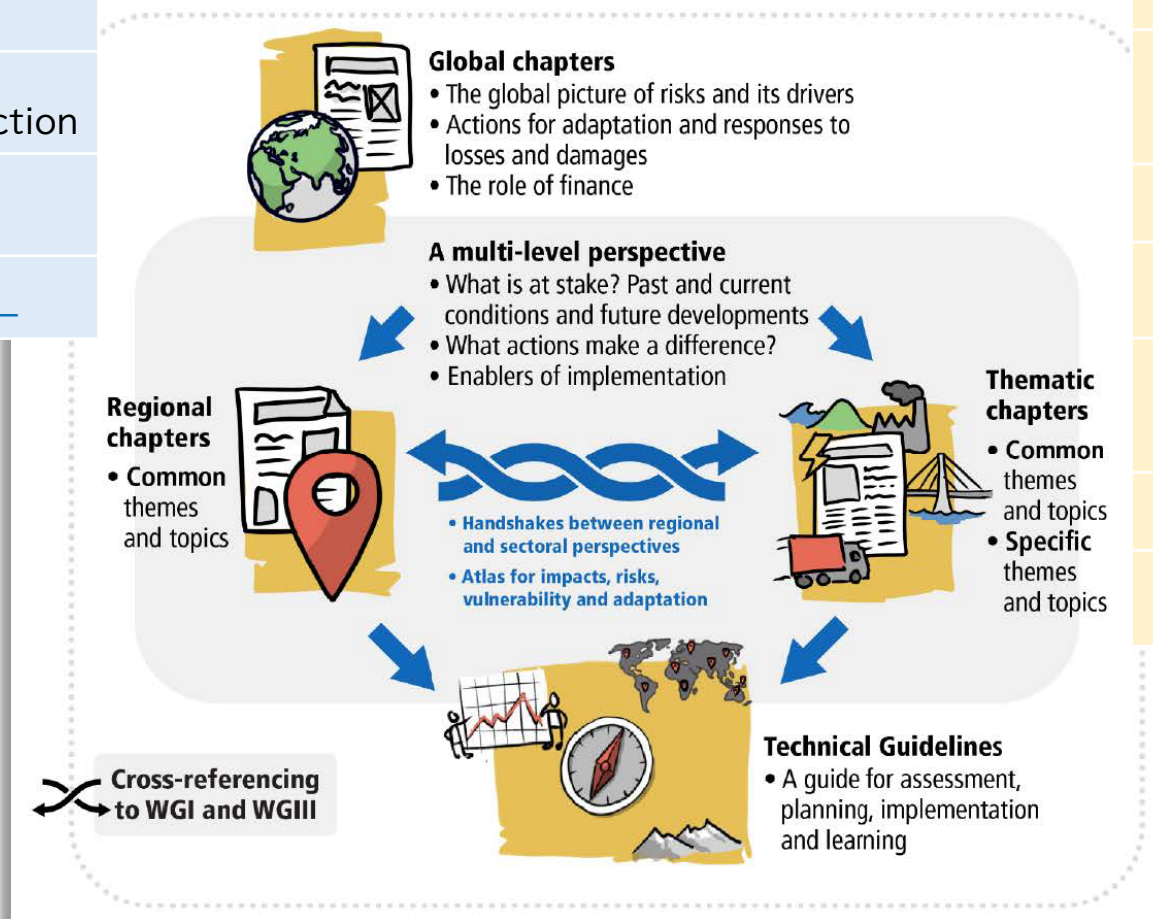
Global Chapters

1	Point of departure, framing and key concepts
2	Vulnerabilities, impacts and risks
3	Current adaptation progress, effectiveness and adequacy
4	Adaptation options and conditions for accelerating action
5	Responses to losses and damages
6	Finance ←大田が執筆者 WG2では初のチャプター

Regional Chapters

7	Africa
8	Asia
9	Australasia
10	Central & South America
11	Europe
12	North America
13	Small Islands

WG2(影響、適応、脆弱性) 第7次評価報告書の構成



Thematic Chapters

14	Terrestrial, freshwater and cryospheric biodiversity, ecosystems and their services
15	Ocean, coastal and cryospheric biodiversity, ecosystems and their services
16	Water
17	Agriculture, food, forestry, fibre and fisheries
18	Adaptation of human settlements, infrastructure and industry systems
19	Health and well-being
20	Poverty, livelihoods, mobility and fragility

(出典: IPCC作成の第7次評価報告書の広報資料. 2026.5)

適応・損失と損害、レジリエンス文脈での

WG2・第6章(ファイナンス)の主執筆者

Lead Author (LA)



- 主執筆者(11名) ←大田はこのひとり
- チャプターサイエンティスト(2名)
- レビューエディター(2名)

↳ Chapter 6: Finance

Last Name	Citizenship	Affiliation
1 ARA BEGUM	Bangladesh	Adjunct Professor
2 BATTISTON	Italy	University of Zurich
3 POPE	South Africa	World Bank Group and University of Oxford
4 BRUK	Ethiopia	United Nations University Institute for Natural Resources in Africa
5 LEE	USA	MSCI, Inc.
6 MANDA	Zambia	University of Zambia
7 MOHAN	Trinidad and Tobago	The University of the West Indies
8 OTA	Japan	Institute for Global Environmental Strategies
9 PAUW	Netherlands	Eindhoven University of Technology
10 RAFFAELE DELLA CROCE	Italy	Imperial College University
11 ZHU	Singapore	Nanyang Technological University
12 SOUSA	Brazil	Banco Bradesco
13 VINER	UK	University of East Anglia

(出典:IPCC. Search Authors Webpage. <https://apps.ipcc.ch/report/authors/>)

日本からの執筆者およびサイエンティスト

IGES
公益財団法人
地球環境戦略研究機関



エリック・ガスマン
WG3 第11章
輸送および移動サービス



亀井 未穂
WG3 第12章
建物および人間居住



写真:第1回執筆者会議(LAM1)フランス・パリ。2025.12.

役割

[CLA]	Coordinating Lead Author
[LA]	Lead Author
[RE]	Review Editor
[CS]	Chapter Scientist

WG1(自然科学)

章	役割	所属	氏名(敬称略)
	RE	国立環境研究所(NIES)	木本 昌秀
1	RE	東京大学 未来ビジョン研究センター	江守 正多
2	LA	東京大学 大気海洋研究所	渡部 雅浩
4	LA	東京大学	伊藤 昭彦
4	LA	気象庁気象研究所	大島 長
9	CLA	海洋研究開発機構 (JAMSTEC)	立入 郁
9	LA	筑波大学	メルニコワ
9	RE	JAMSTEC 東北大学	河宮 未知生
TG	Data	宇宙航空研究開発機構 (JAXA)	沖 理子

インベントリー・タスクフォース

役割	所属	氏名(敬称略)
共同議長	地球環境戦略研究機関(IGES)	榎 剛史

AR7:日本からの貢献者

WG2(影響、適応、脆弱性)

章	役割	所属	氏名(敬称略)
1	CLA	東京大学大学院	沖 大幹
2	LA	国立環境研究所(NIES)	朝山 慎一郎
3	LA	東京都市大学	馬場 健司
6	LA	地球環境戦略研究機関(IGES)	大田 純子
8	CLA	農業・食品産業技術総合研究機構	長谷川 利拡
8	LA	京都大学 防災研究所	山本エバ
16	LA	国立環境研究所(NIES)	花崎 直太
17	LA	農業・食品産業技術総合研究機構	飯泉 仁之直

都市特別報告書

章	役割	所属	氏名(敬称略)
2	LA	東京大学大学院	橋爪 真弘
5	LA	海洋研究開発機構(JAMSTEC)	伊東 瑠衣
5	LA	森林総合研究所	エストケ R.C.
5	LA	慶応義塾大学大学院	S. ラジブ

WG3(緩和)

章	役割	所属	氏名(敬称略)
2	LA	フランス気候環境科学研究所、 NIES	田中 克政
3	LA	立命館大学	長谷川 知子
4	LA	京都大学	藤森 真一郎
7	LA	慶応義塾大学	森田 香菜子
8	LA	地球環境産業技術研究機構	秋元 圭吾
9	LA	国立環境研究所(NIES)	S.ディエゴ
10	LA	アセットマネジメントOne(株)	田中 加奈子
11	LA	地球環境戦略研究機関(IGES)	E. ザスマン
12	LA	地球環境戦略研究機関(IGES)	亀井 未穂
12	LA	シンガポール工科大学	村上 迅
15	CLA	東京大学	杉山 昌広

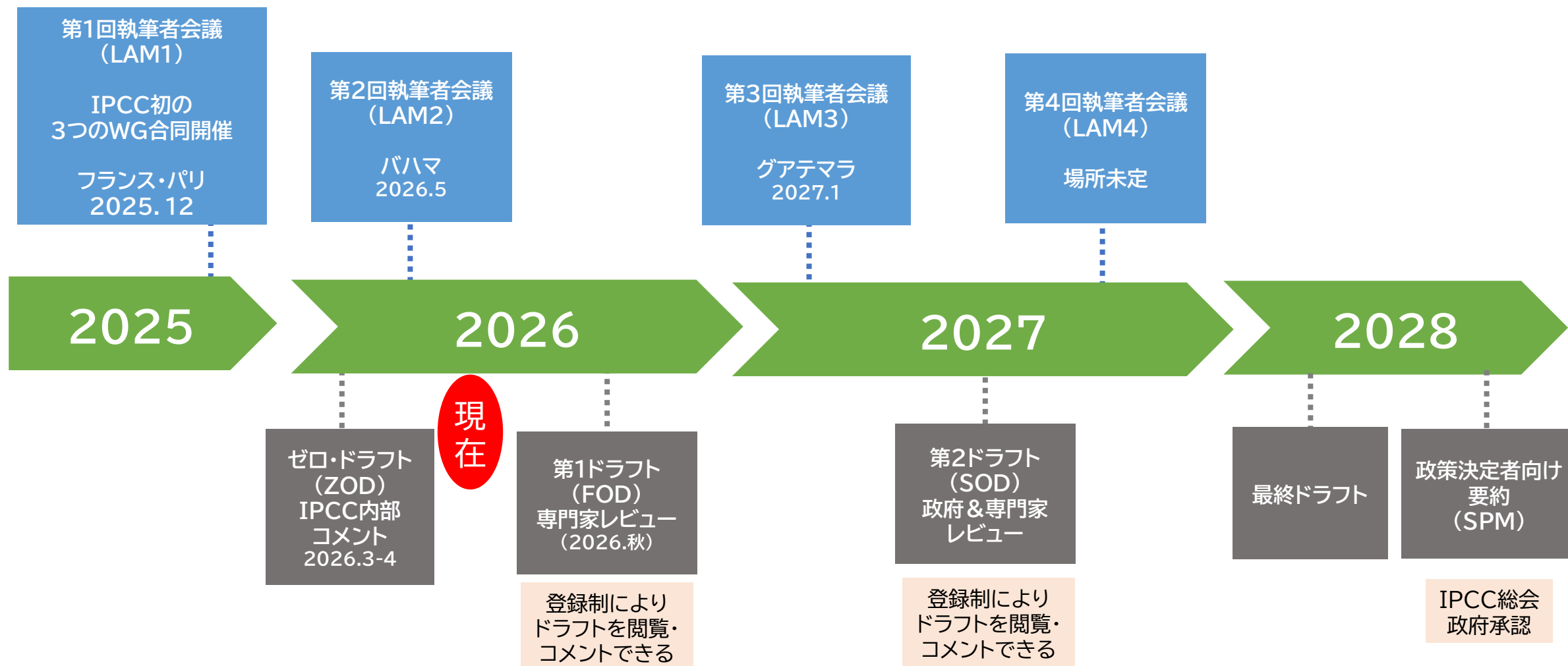
SLCF(短寿命気候強制因子)

役割	所属	氏名(敬称略)
LA	(株)IHI 技監	飯泉 仁之直
RE	地球環境戦略研究機関(IGES)	田辺 清人

(出典:IPCC Author Search. <https://apps.ipcc.ch/report/authors/>)

WG2・第7次サイクルにおける作業工程

4回の対面会議(LAM: Lead Authors Meeting)と2回のドラフト



例年、数千～万件のコメントがあり、全てに何らかの対応を取っている

IPCC初の3つの作業部会合同の第1回執筆者会議

(LAM1) 1st Lead Authors Meeting

第7次サイクルは **統合 Integration** が強調され
3つのワーキンググループから、600名を超える執筆者や科学者がパリに集まった



写真:IPCC. AR7 第1回執筆者会議(LAM1) 2025年12月 フランス・パリ

パリ協定採択(2015)から10周年にあたり フランス政府主催のレセプション等も開催された

歴史的なブルボン宮殿内で開催された



IPCC議長のジム・スキー(Jim Skea:英国)氏と



写真:大田. LAM1. フランス政府主催レセプション 2025年12月 パリ

執筆者会議は、ダイバーシティ(GDEI)研修から始まった

Gender, Diversity, Equity, and Inclusivity

研修のメッセージ

多様・異質 単一・同質

「Heterogeneous」な集団は、「Homogeneous」な集団より、より有効な成果を出せる

Gender

Sex¹

Physical characteristics, including genitals and chromosomes, often classified as the binary **male or female.**

SEVENTH ASSESSMENT CYCLE
ipcc
INTERGOVERNMENTAL PANEL ON CLIMATE CHANGE

Gender²

How **people feel and identify.**

Diversity

Homogeneous³

Groups made of people that predominately share the **same characteristics.**

SEVENTH ASSESSMENT CYCLE
ipcc
INTERGOVERNMENTAL PANEL ON CLIMATE CHANGE

Heterogeneous²

Groups made of people that have **different characteristics.**

Bias

Bias¹⁵

Tendency to **favour or be unfair** to a person or group, based on personal prejudice.

SEVENTH ASSESSMENT CYCLE
ipcc
INTERGOVERNMENTAL PANEL ON CLIMATE CHANGE

Fairness¹⁶

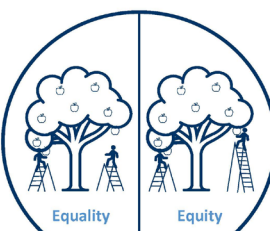
Impartial treatment / lack of favoritism towards a person or group.

Equity & Equality

Equity and equality mean quality: Quality of participation and opportunities.³

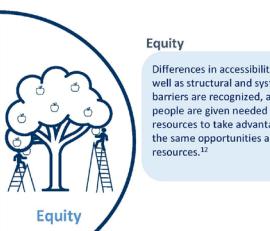
Equality

Everyone is given the same opportunities and resources.¹²



Equity

Differences in accessibility as well as structural and systemic barriers are recognized, and people are given needed resources to take advantage of the same opportunities and resources.¹²



Diversity

Diversity means quantity: The representation of differences in a group.³



Identity:⁴
Refers to the characteristics, traits, and affiliations that define who a person is.

The Internal Layer:⁵
These are unchangeable, neither by the individual nor by their environment.

The External Layer:⁶
These can and usually do change more or less frequently during a person's life. Further, they can actively be influenced by the individual and/or their environment.

The Organizational Layer:⁶
The most outer layer's dimensions change throughout a person's life and can be heavily influenced by others.

³ <https://fundshelton.org/wp-content/uploads/2021/04/2021-04-01-Diversity-Definition-Updated.pdf>
⁴ <https://www.merriam-webster.com/dictionary/identity>
⁵ <https://www.researchgate.net/publication/350444444-Identity-Definition-Updated>
⁶ <https://www.researchgate.net/publication/350444444-Identity-Definition-Updated>

Inclusion

Inclusion is relational: Fair and equitable contribution, collaboration, and recognition of all authors.³



Inclusion
is relational, it is about the experience of individuals and groups in the workplace.³

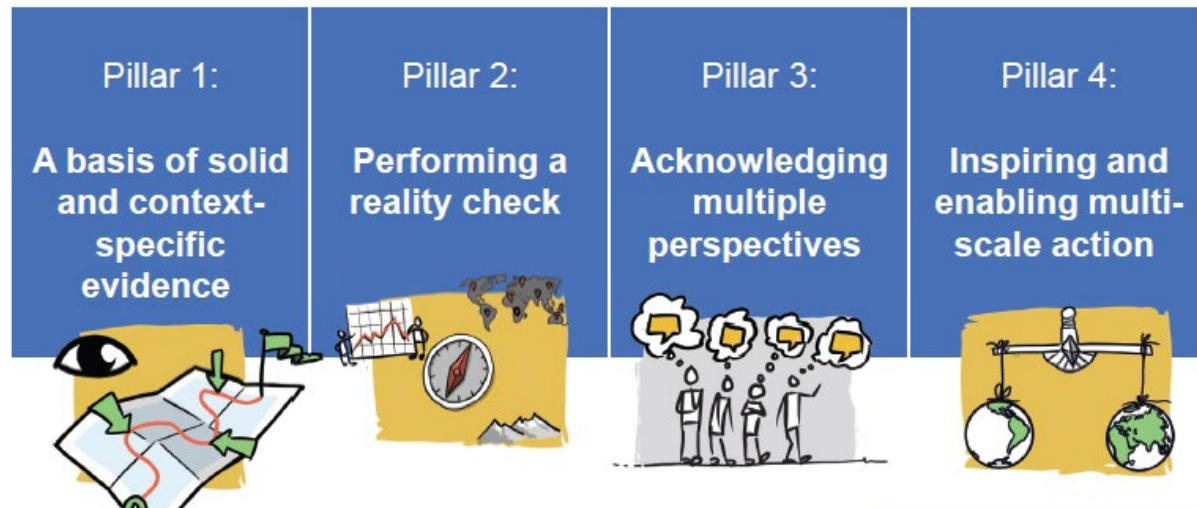
出典:IPCC-AR7 第1回執筆者会議でのGDEI研修スライドから抜粋 2025.12(転用不可)

23

IPCC-WG2のビジョン

1. 文脈にそった確固たる証拠
2. 現実性の確認(リアリティ・チェック)
3. 複数の視点
4. マルチスケールな行動を喚起、可能にする

A WGII vision for an actionable contribution to AR7



いろいろな行動カードが、どのビジョンに該当するか理解を深めるワークショップも開催された

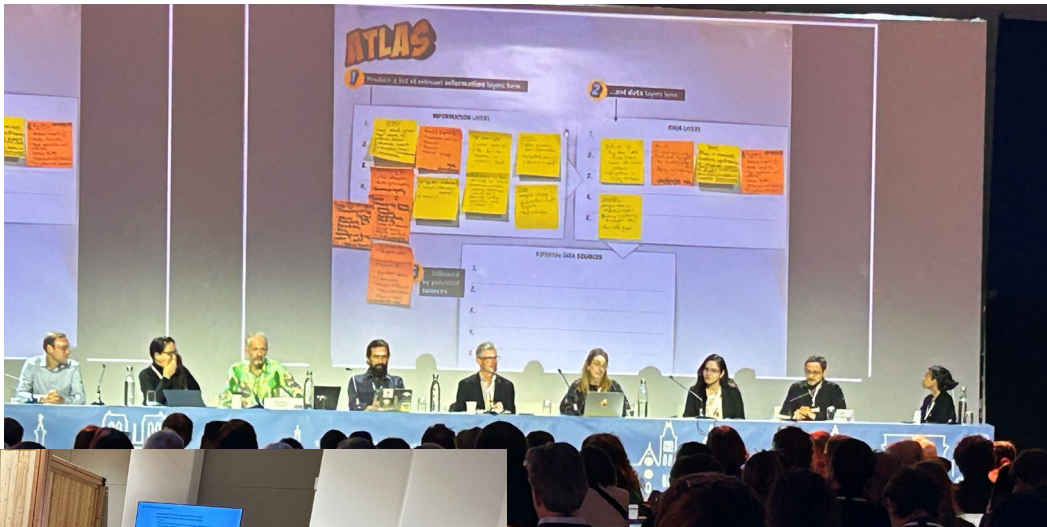


C hallenges in measuring changes in income in hard-to-reach agricultural regions. ACTIVATION CARDS	S tudies showing capacity barriers for local adaptation planning. ACTIVATION CARDS	M ethodologies for distinguishing climate-relevant impacts and risks in the built environment. ACTIVATION CARDS	U nderstanding challenges in scaling up climate-resilient agriculture. ACTIVATION CARDS
B est practices for climate-adaptive spatial planning. ACTIVATION CARDS	C ase studies of climate change impacts and adaptation on transhumance. ACTIVATION CARDS	C ompare adaptation actions to current budget allocations. ACTIVATION CARDS	U se multilingual evidence sources. ACTIVATION CARDS
L ocal-to-global action table for each adaptation assessment statement. ACTIVATION CARDS	C ase studies of transboundary water resource management. ACTIVATION CARDS	M ake sure authors new to IPCC have a buddy or mentor. ACTIVATION CARDS	I dentify a "voice checker" in every chapter meeting. ACTIVATION CARDS

出典: IPCC-AR7 第1回執筆者会議でのワーク資料から抜粋 2025.12(転用不可)

ワーキンググループや章の垣根を超えたセッションが多数開催

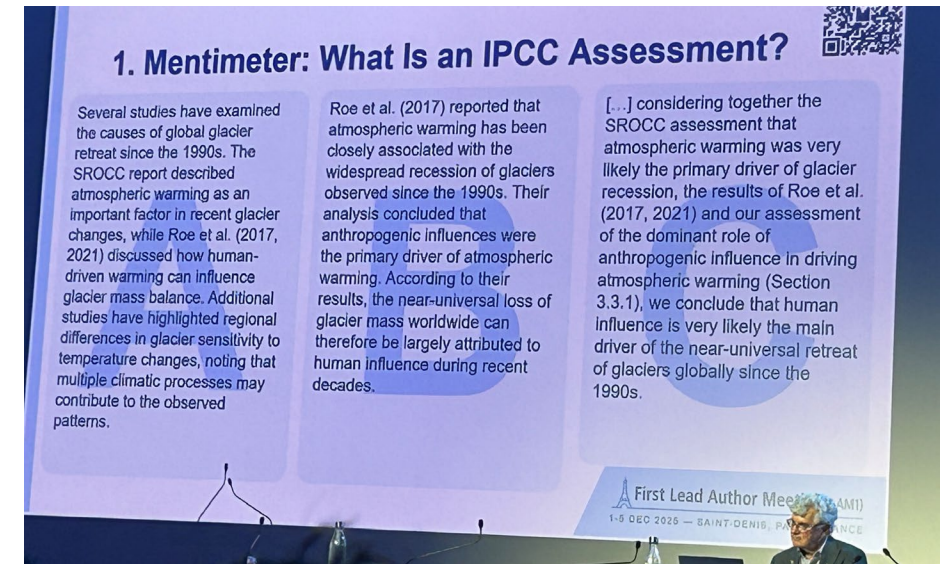
サイクル中ほとんどは、リモート作業・オンラインなので、対面ならではのインタラクティブ企画



第7次サイクルでは
WG2「初」の
インタラクティブ・アトラスを
作成する
(これまではWG1科学のみ)

大田はアトラス(地図)の担当でもある Break Out Group for Atlas

クイズ形式のワークショップ
どれがIPCC的には正しい書き方か？



出典:IPCC-AR7-LAM1ワーク資料から抜粋 2025.12(転用不可)

WG2 第2回執筆者会議(LAM2)

バハマ 2026年5月



小島嶼国(SIDS)は
気候変動の悪影響を受ける脆弱国として
適応策が急務となっている



出典:外務省HP

バハマ

人口約40万人
首都:ナッソー
スペイン・イギリス領を経て
1971年に独立した
カリブ海の島国
観光業が主な産業

出典:IPCC. ドローンで撮影(転用不可)

近年、IPCCを取り巻く環境は大きく変化

適応と
損害と損害の境界

気候正義・
公正性

政策の実効性
への疑問

複雑な関係性
リンケージ

AIの発達

気候変動の影響
の加速

1.5℃
オーバシュート

サブトピックの
増大

紙媒体の減退

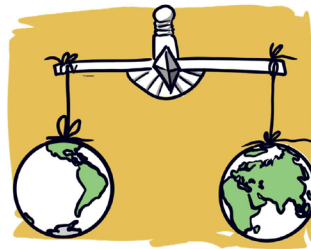
伝統的知識
の見直し

文献の増大・
媒体の多様化

IPCCにおける新しいイシュー

Key ambitions for AR7 WG II

Updated Impact Assessment sensitive to principles of equity and justice (e.g. mapping diversity in vulnerability profiles)



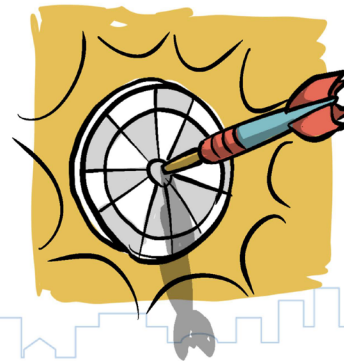
Easy navigation structure along regional, physical and socio-economic characteristics



Comprehensive on topics by academics and practitioners, and linking local to global scales



Action oriented assessment with a “reality check” (linking short – long term, adaptation – DRR, climate – SDGs, enablers – barriers)



地域・物理・社会経済的な
特性に基づいた
分かりやすい
ナビゲーション構造

公平性と正義
に配慮した影響評価

Equity & Justice

学術から実務にわたる
包括的なトピック

ローカルとグローバル
のリンク

現実との照合
(リアリティ・チェック)を
伴う行動志向の評価

(短期と長期、適応と災害リスク削減、気候変動とSDGs、促進要因と障壁の関連付け)

(出典: IPCC作成の第7次評価報告書の広報資料. 2026.5)

IPCCは大きな転換期にある

これまで

第7次サイクル(影響、適応、脆弱性)に加えられた新しい視点

科学的知見の客観的な評価



行動へつながる評価
(行動を後押すメッセージ形成、ナラティブ重視
Policy relevance、Action-oriented)

被害予測
このままだと「何が起こるか」
Hazard、Exposure、Vulnerability



人間社会の対応能力
「何ができるか・何を変えるべきか」
適応の実現可能性・実行性を評価
「何か機能し・何が機能しないか」

単独分野のスコープでの評価



複合的・連鎖的リスク(Cascading risks)
水、食料、健康、生態系、社会経済システムを
横断するリスクの連鎖を評価

査読付き学術論文



査読無し報告書(国連、OECDのレポート等)
先住民(Indigenous people)や地域(Local)
実務者の知見(Practitioners)も文献対象

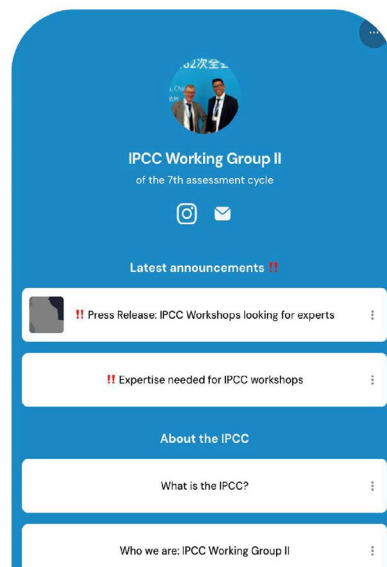
IPCCワーキンググループ2(影響、適応、脆弱性)の最新情報を受け取りたい方は 下記から登録できます

SNS

Access our resources
easily via our LinkTree!



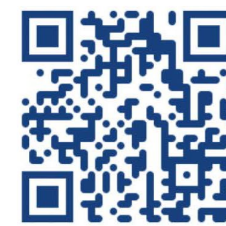
<https://linktr.ee/ipccar7wg2>



メーリングリスト



Thank you and follow our journey online!



Scan here to join
WG II's mailing list:
www.tinyurl.com/wg2mailinglist

ご清聴ありがとうございました！